

Masako Saida

Soprano Recital

2004年度エクソンモービル賞を受賞した斉田正子のリサイタル。

しかも曲目は、直接の受賞理由となったオペラ「アルジェのイタリア女」に因んで、すべてロッシーニ作品で、これは二重の楽しみ。デビュー以来、軽やかな高音域と響きのいい中音域を駆使して活躍してきた彼女にとって、ベルカントの王者ロッシーニは難曲ながら宝の山。

洒落た「音楽の夜会」で幕を開け、アリア「美しい光が」で締めくくる。

歌の帯、声のきらめくこの日が本当に楽しみだ。…………… 三善清達



斉田正子 Masako SAIDA (Soprano)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程及び博士後期課程修了。1992年3月東京藝術大学より「19世紀イタリア ベルカント オペラについて」にて学位博士(音楽)を取得。84年「第19回民音コンクール」第2位入賞。その後国際文化交流財団の奨学生として、イタリアのミラノに留学。85年「第6回イタリア パヴィア国際声楽コンクール」第3位入賞。86年「第35回ミュンヘン国際音楽コンクール」女性声楽部門第2位入賞し帰国。88年藤原歌劇団初のオーディションに合格し「椿姫」のヴィオレッタ役でデビュー。同年「第2回グローバル東敦子賞」「第16回ジロー・オペラ賞新人賞」を受賞。オペラでは藤原歌劇団「清教徒(日本初演)」エルヴィラ、「カルメン」ミカエラ、「ラ・ボエーム」ムゼッタ、「ドン・ジョバンニ」ツェルリーナ、新国立劇場「魔笛」パミーナ、「天守物語」、新国立劇場・二期会オペラ振興会共催公演「沈黙」、新国立劇場「光」、その他多くのオペラに出演。リサイタルやオーケストラとの共演、FM放送、テレビCM、また最近では「あなたの声を良くするコンサート」に力をそそいでいる。よんでん文化奨励賞、テレビ愛媛賞21を受賞。また、2004年11月にはエクソン・モービル音楽賞奨励賞を受賞した。佐藤陽三、岡部多喜子、東敦子、V.ボッローニ、A.ベルトラーミ、R.エリー諸氏に師事。藤原歌劇団団員。日本大学芸術学部研究所助教授。

河原忠之 Tadayuki KAWAHARA (Piano)

国立音楽大学卒業。同大学院修了。その後イタリアへ留学。

アルド・プロッティ氏のもと、ヴェルチェリ音楽院においてオペラ伴奏ピアニストを務める傍ら、数々の演奏会に出演。帰国後はコルペティトゥールとして数多のオペラに参加。

特に声楽伴奏の第一人者として多くのソリストの信頼を集めている。

その幅広い音色、繊細な音楽表現には定評がある。



斉田晴仁 Haruhito SAIDA (Doctor/Tenor)

※18:00開演「あなたの声をよくするレクチャーコンサート講師」

医学博士、耳鼻咽喉科専門医。国際劇場医(CoMeT)会員。昭和大学医学部兼任講師。

二期会オペラスタジオ研究生としてオペラを研修。イタリア留学中に喉頭癌や

オペラ歌手の声帯の診療など喉頭科学の研究を行う一方、発声法なども、専門的に学ぶ。

帰国後、旧東大音声研究所等で研究を続け、現在横浜市港北区大倉山にて開業。

(<http://www.good-voice.co.jp>)

多くの歌手、俳優などの信頼を得ている。花王antuワークショップへの出演や、

TVKテレビ神奈川フォーラムへの出演などを通じ、声のサイエンスをわかりやすく解説する

レクチャーコンサートは各地で大きな注目を集めている。